

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Null association between isolated orofacial clefts and sleep duration:
a cohort study from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

口唇口蓋裂を有する子どもの睡眠時間

ユニットセンター(UC)等名:北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Cleft Palate-Craniofacial Journal

年:2022 DOI: 10.1177/10556656221128425

筆頭著者名:佐藤 遊洋

所属 UC 名:北海道ユニットセンター

目的:

口唇口蓋裂のある子どもは睡眠時に呼吸の問題が起こるリスクが高いことが報告されているが、口唇口蓋裂と睡眠時間との関連を検討した研究はない。そこで本研究では生後1ヶ月、6ヶ月、1歳時、3歳時での睡眠時間を調査した。

方法:

エコチル研究に参加する91,497人の子どもを対象とした。そのうち、口唇口蓋裂を有する子どもは69名、口唇裂のみを有する子どもは48名、口蓋裂のみを有する子どもは37名であった。生後1か月時、6か月時、1歳時、3歳時の1日当たりの睡眠時間について、母親への質問票により調査し、口唇口蓋裂の有無により比較を行った。

結果:

口唇口蓋裂のない子どもの生後1か月時、6か月時、1歳時、3歳時の平均睡眠時間(標準偏差)はそれぞれ15.2(2.5)、13.6(1.9)、12.9(1.6)、11.6(1.2)時間であった。これと比較して、各時点の睡眠時間はそれぞれの口唇口蓋裂を有する子どもにおいてもほぼ同じであった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の限界は以下のとおりである。第一に、睡眠の質は調査していないため不明であること、第二に、口唇口蓋裂の重症度が不明であること、第三に、上気道の状態に大きく影響する口蓋裂の手術に関する情報がなかったことである。また、睡眠時間は親からの報告に基づいているため、正確性に懸念がある。

結論:

本研究の結果から、生後1か月時、6か月時、1歳時、3歳時における睡眠時間は、口唇口蓋裂を有していても変わらないことが示された。口唇口蓋裂を有する子どもも十分な睡眠時間を有していた。